荒瀬ダム撤去に伴う諸問題の解決を県へ要望

問合せ　企画調整課☎３３－４１０４
Ｅメールアドレス　kikaku@city.yatsushiro.lg.jp

荒瀬ダム撤去問題について

八代市は、豊富な水量を持つ球磨川から農業、工業用水を取水する等、球磨川の多大なる恩恵を受け、今日まで発展を遂げてきました。

既存ダムの撤去は、全国初の取り組みでもあり、ダム撤去が及ぼす影響は多岐にわたると思われ、流域住民のみならず八代地域全ての産業及び住民生活に影響を及ぼしかねません。

市町村合併以前に旧八代市では「利水問題」と「環境問題」を中心に、旧坂本村では「球磨川再生」を基本的な考えとして、それぞれ熊本県に対し「撤去に関する諸対策について」要望書を提出していましたが、未だ、流域住民の不安を解消するに至っておりません。

流域住民のみならず、八代市民全ての安全で快適な生活環境を確保するためには、諸問題に対し国、県、市それぞれの視点で捉え、それぞれの立場で問題解決に取り組まなければなりません。

そこで本市では、旧市・村での議論を継承し、新たな視点で検討すべく平成１８年５月１９日、市議会、農業･漁業関係者、流域住民等からなる「荒瀬ダム撤去対策検討会議」を組織し、要望書提出までに６回の会議を開催し、荒瀬ダム撤去に伴う諸問題について検討を重ねてきました。

その検討結果を踏まえ、八代地域の将来的な農林水産業、工業振興、環境保全及び地域活性化を図る観点から、八代市では平成１８年１２月１８日に熊本県に対し要望書「荒瀬ダム撤去に関する諸対策について」を提出しました。

▲要望書を読み上げる坂田市長

▲要望に対応する安田副知事

◀荒瀬ダム

荒瀬ダム（藤本発電所）は戦後の電力不足の中で、電力の安定供給による熊本県経済復興を目的に策定された球磨川総合開発計画に基づき、昭和２９年に坂本村荒瀬（現 坂本町荒瀬）に建設された県営初の発電用ダムです。

熊本県は平成１４年度に「荒瀬ダム撤去」の方針を表明し、現在、学識経験者及び関係機関の代表者で構成された「荒瀬ダム対策検討委員会」と、主に学識経験者からなる「ダム撤去工法専門部会」を設置し、ダム管理対策、環境対策及びダム撤去工法等について検討を行なっています。

《要望内容の概要》

◆総合的な検討体制の設置

荒瀬ダム撤去が及ぼす影響は、幅広い問題となることから、県だけでなく国や関係機関との協議体制を執っていただくと共に県内部での総合的な検討体制の設置をお願いする。

その中で次の内容について協議をお願いする。

１．利水問題について

上流の瀬戸石ダムが現在行っている発電方式では、安定した河川流量の確保が難しいことから、一日中安定した水量の確保と渇水時にも影響を及ぼさないよう要望する。

２．環境問題について

既存ダムの撤去は、全国初となることから、環境への影響が懸念される為、環境調査の範囲を八代海までとし水質や魚族等への影響がないよう要望する。

３．堆砂・泥土除去について

ダム下流への土砂補給については、下流区域に悪影響を及ぼさないよう、十分な検討を行ない、遥拝堰や漁港などに問題がないよう要望する。

４．水位低下に伴う諸問題について

擁壁や宅地に影響が出ないよう因果関係の検証と、水道への影響や消防水利への影響がないよう早急な対策を要望する。

５．代替橋について

現在、生活用の道路として大きな役割を果たしているダムが無くなれば地域の住民にとって大きな問題となることから、ダムに代わる橋を架けていただくよう要望する。

６．ダム撤去に伴う諸問題について

流域住民に大きな影響を及ぼす問題である為、ボートハウス、藤本発電所などを地域活性化につながるような整備推進を要望する。

▲遥拝堰（八代市渡町）

八代平野の大事な水の取水口となっている遥拝堰は、農業用水や工業用水のみならず、飲料水もこの遥拝堰から取水しています。

▲球磨川上流の瀬戸石ダム
（葦北郡芦北町・球磨郡球磨村）

現在、瀬戸石ダムでは１日に９時間の断続的な発電を行なっています。

▲荒瀬ダムボートハウス（八代市坂本町葉木）

荒瀬ダム湖を利用してボート、カヌースクーリング、研修・交流・合宿施設として現在利用されています。

▲荒瀬ダム堰堤（八代市坂本町荒瀬）

ダム堰堤は生活用道路として利用されています。

《今後の対応》

今後は、県等の対策状況を見ながら、「荒瀬ダム撤去対策検討会議」の中で十分な意見交換を行い、必要であれば再度要望を行なう等、球磨川流域の地域活性化や、ダム地域住民の皆様の生活環境に支障をきたさぬよう、要望書の内容に添って県等関係機関と随時協議を行なっていきます。